

一つの原因で失ったものは
追分小学校6年 渡辺ひかり

私は、学校の折り鶴集会
や、戦争の本や写真を見たの
がきっかけで、広島に行つて
みたいと思いました。

今にも崩れそうな原爆ド
ムやたくさんの像、記念碑に
は、詩や訴えが彫られ、原爆
へのうらみや悲しみが伝わっ
てきました。

たった一つの原子爆弾で
失ったものは、とてもたくさ
んあります。14万人以上の命
と奇跡的に生き残った人たち
のその後の人生。ほかにも、
たくさんの建物や、広島のマ
チそのものと、平和なくらし
などです。

今、私たちの住んでいる町
の平和は、戦争でたくさんの
失ったものの上にあるんだと
思いました。

私は、戦争のこわさを知ら
ないし、考えたこともあまり
ありませんでしたが、広島に
行つて、あらためて原爆と戦
争の恐ろしさを感じることに
できました。この気持ちは、
私が大人になっても忘れず
たいです。

戦争が起きた時の
様子や気持ち
安平小学校6年 鈴木 涼斗

ぼくが参加しようと思つた
きっかけは、戦争のことをよ
く知らなかったからです。

平和記念資料館には、被爆
した三輪車、学生服、時計等
たくさん展示してありまし
た。一瞬の高熱だったので鉄
などもとききらず変形してい
ました。壁に刺さったガラス
を見た時は、原爆はとも恐
ろしいものだと改めて思ひ
ました。「皮下出血によるし
はんが出た兵士」の写真を見
て、この人はどんなに辛思
いをしただろうと考えまし
た。自己テーマに対する答え
は、『辛いとか苦しいとかで
はないんじゃないかな』とこ
の時思いました。

ぼくは、広島に行く前、戦
争や核兵器は世界にあつては
ならないと思つていました。
広島に行つて色々なことを見
たり聞いたりしてこの気持ち
がより一層強まり、被爆者の
体験を聞いて、戦争を知らな
い人たちに伝えなければと強
く感じました。

原爆を投下された後の
人々の思い
遠浅小学校6年 藤井 稜介

ぼくは、語り部の塩治さん
に戦争や原爆のことについて
聞きました。塩治さんは五歳
の時に被爆し、原爆が投下さ
れた時は、何もかもが一瞬の
ことで、何が起きたのか全く
分からなかったそうです。屋
根が崩れ落ちて塩治さんはが
れきの中に閉じ込められ覚え
ているのは、真つ暗闇の中
にいたことだけだったそうで
す。その後、母親に助けられ
て外に出た時には、あたりの
家々が全てなくなつていまし
た。ぼくは、小さい子どもた
ちまでもが、何も分からない
まま巻き込まれてしまうこと
が戦争の恐ろしくてかわいそ
うだと思ひました。

原爆によつて、すべてが空
しくなった記憶があるといひ
ます。普通の人の当たり前の
生活がすべて奪われてしまつ
たことがよくわかりました。
ぼくは、家族や友達などに
囲まれ普通に生活している
それが、本当に恵まれている
んだなと強く思ひました。

被爆した方が、今思っている
ことや伝えたいこと
早来小学校6年 門田 涼楓

アメリカ人の約半数が原爆
によつて終戦が早まったのだ
から、原爆投下は正当化でき
ると思つているそうです。そ
のことについて塩治さんは、
「それは誤つた考え方です。
焼けただれた人の死体を見
たとき戦争の悲しさがわかり
ます。」とおっしゃつていま
した。そして、原爆は間違つ
ていたと考える人の輪が広が
つて欲しいそうです。

今回、広島で塩治さんのよ
うな語り部の方や広島町の並
みで平和を伝える努力をして
いることがわかりました。私
はこれから色々な国の人も
話さなければならぬ機会が
たくさん出てくると思ひま
す。その時に平和についての
話が出たら、原爆を使つたの
は間違いだったし、これか
らも使つてはいけないといひ
ことを言わなければならぬ
し、それが私の役目だと思ひ
ます。

平和を願う一日

8月29日、町民センターで
平成27年度安平町平和祈念式
典が行われ、122柱の御霊
体に祈りを捧げました。

戦災体験者の高齢化により
惨禍の話しが薄れ風化しつ
つある昨今、戦後70年間憲法9
条を柱に平和主義を通してき
た日本が、国会での安保保障
関連法案の可決により揺れて
います。

願ひは、二度とあのような
悲惨な戦争が起きないこと、
核兵器の廃絶に向け、改めて
平和を誓う一日となりまし
た。

